がしばしばあつた。殊に個体数は平均して食品よりも医薬品の方が多く、ホコリダニ類は食品よりむしろ医薬品の害虫として注目すべきである様に思われた。(長岡保健所)

各種漬物中のコナダニ類について：細谷英夫・大和田幸三・久郷準・佐々学 Hosoya, H., Owada, K., Kugoh, T. & Sasa, M.: Notes on the acarid mites found in the several kinds of Japanese pickles

東京都衛生局食品衛生課の御厚意により、都内に市販されている漬物類に発生せるコナダニ類の調査を1956年1月～2月の間に行つたのでその結果の概略を報告する。紫蘇実漬、紫蘇葉漬、塩漬大根、沢庵漬、切漬、福神漬、ラッキョウ漬、味噌漬、酒粕漬、塩漬米糠、ナタ豆漬、蓮根漬、ナス漬、生姜漬、塩漬瓜うま味漬、山海漬、万両巻漬、切干及び割干漬等、漬物類18種、乾燥野菜2種、総数99例を検査材料とした。味噌漬、酒粕漬、蓮根漬及び山海漬ではその検査せる全例から *T. dimidiatus*, *C. lactis*, *R. echinopus* 及び *C. rodionovi* 等を検出した。福神漬 ($\frac{1}{8}$)、生姜漬 ($\frac{1}{2}$)、塩漬瓜 ($\frac{1}{2}$) では検査例数の50%に *T. dimidiatus*, *C. lactis*, *R. echinopus* (hypopus を含む), *C. rodionovi* 等を検出した。その他紫蘇実漬44.4% ($\frac{1}{9}$)、ラッキョウ漬37.5% ($\frac{3}{8}$)、ナタ豆漬25% ($\frac{1}{4}$)、塩漬大根及び割干16.6% ($\frac{1}{6}$)、塩漬米糠12.5% ($\frac{1}{8}$)、切干11.1% ($\frac{1}{9}$)、沢庵漬6.2% ($\frac{1}{16}$) 等であり紫蘇葉漬、ナス漬、うま味漬及び万両巻漬からは全くコナダニ類を検出し得なかつた。他の一般食品と同様 *T. dimidiatus* 及び *C. lactis* が比較的多く検出され、又 *R. echinopus*, *C. rodionovi* が hypopus と共に検出されたことは漬物類の特色と見てよいであろう。

食塩濃度15%内外の漬物中においてコナダニ類を发育乃至繁殖することが可能か否かについては更に検討を要するものと思はれる。尚本調査は冬期に行はれたものであり、今後他の季節の調査と相俟つて年間の消長についても調査を行いたいと思う。(日大・農獣医、東医歯大・医動物、伝研・寄生虫)

サトウダニの生態、特に繁殖条件に就て：飯室勇・佐々学 Iimuro, I. & Sasa, M.: Studies on acaroid mites II. Observations on the growth requirements of the sugar mite, *Carpoglyphus lactis* (Linnaeus, 1758)

サトウダニの研究は諸外国においても研究報告に乏しく、製糖工業における資料にもサトウダニに関するものは殆んど見当たらない。このような現状において筆者は殊に砂糖における繁殖条件の解明に志し、前報に述べたケナガコナダニの生態研究に用いた技術を応用して特に温度湿度の条件を検討した結果、幸にその大綱を明らかにし得て、実験室内で容易に繁殖させることに成功した。市販砂糖の精製工程の相違により純度、結晶形、水分含量などが異つたグラニュー、上白、中白、三温、白双、中双黒を用い実験を行つた。繁殖の状況は餌料即ち砂糖の品質、殊に水分含量、窒素量に密接な関係があり、水分含量、窒素量ともに多い黒、中白、三温において良好な繁殖をみ、窒素を検出せず、水分含量も少いグラニュー、白双、中双では繁殖は全く行われなかったかまたは微弱な状態であり、水分含量、窒素量の比較的少い上白も繁殖は不良である。即ち精製糖よりも粗製糖に顕著に繁殖するものであることが分つた。繁殖と湿度の関係においても、砂糖は適温、高湿下では1週間で醗酵を起しサトウダニの发育は阻害され死滅する。42% R. H. の低湿度でも速かに乾燥死滅する。NaCl (75% R. H.) を入れた容器のみに繁殖がみられ、餌料の水分含量測定(第31日)よりみても、この湿度が最も繁殖に適していると云える。繁殖と湿度の関係は37, 28, 25, 20, 18°C 及び7~19°Cの室温により観察、サトウダニの増殖に温度の条件が著しい影響を及ぼすことが明らかになり、25~28°Cで繁殖は最も旺盛で、37°Cでは速かに死滅、10°C以下では发育せず、各温度においてその増殖の速度、最高密度における個体数、減退傾向の速度などに一定の差がみられることが分つた。(伝研・寄生虫)

奈良県吉野郡に於ける鼠寄生トゲダニに就て：下間頼甫・桑原健・宮川正澄 Shimotsuma, Y., Kuwahara, K. & Miyagawa, M.: Laelaptidae (Acarina) found from rodents in Nara

1956年3月より1カ年間に、奈良県吉野郡の山林、畑、民家の各場所に於て捕獲せる鼠の寄生性 Laelaptidae の調査を行つた。捕獲した宿主はアカネズミ48頭、ドブネズミ12頭、クマネズミ57頭、モグラ2頭で、其の内のドブネズミ8頭クマネズミ全部は家屋内で捕獲された。宿主より採集した Laelaptidae は 1) *Laelaps jettmari* 2) *Laelaps echidninus* 3) *Laelaps nuttalli* 4) *Eulaelaps stabularis* 5) *Haemogamasus japonicus* 6) *Hirstionyssus carnifex* であつた。1) 2) 3) は両成虫、第Ⅰ第Ⅱ若虫、幼虫で、4) は雌成虫のみ、5) は雌成虫第Ⅱ若虫で 6)